



東京2020オリンピック ^{もときひろき}ハンドボール男子代表元木博紀選手 夢の舞台で活躍



©時事

【試合結果/予選リーググループB 日本敗退】

7月24日/日本対デンマーク/日本敗退

前回大会で金メダルを獲得したデンマークと対戦し、30対47で敗れました。

元木選手は、チーム最多の8得点を獲得しました。

7月26日/日本対スウェーデン/日本敗退

今年の世界選手権準優勝のスウェーデンと対戦し、26対28で敗れました。

7月28日/日本対エジプト/日本敗退

今年の世界選手権7位のエジプトと対戦し、29対33で敗れました。

7月30日/日本対バーレーン/日本敗退

バーレーンと対戦し、30対32で敗れました。

8月1日/日本対ポルトガル/日本勝利

ポルトガルと対戦し、31対30で勝利し、1988年のソウルオリンピック以来、33年ぶりのオリンピックでの勝利となりました。しかし、グループ内の得失点差で準々決勝進出はなりませんでした。



©AFP=時事

7月23日から開幕された東京2020オリンピック。史上最多の33競技・339種目が開催され、かすみがうら市出身の元木博紀選手が、ハンドボール日本代表として全試合に出場し、1988年のソウルオリンピック以来、33年ぶりのオリンピックでの勝利をつかみ取りました。

夢の舞台で活躍を誓った元木博紀選手は、スピードのある動きと、バリエーション豊かなシュートを放ち、初戦のデンマーク戦では、チーム最多得点を獲得するなど、チームに貢献していました。

チームとしては、予選リーグの突破は叶いませんでしたが、選手が一丸となってプレーする姿は、観る人に感動を与え、オリンピックの歴史に刻まれました。

元木博紀選手からのメッセージ

大会を通して応援して下さった皆様、そして朝早くから夜遅くまで私たちのためにサポートして下さったボランティアスタッフの皆様、大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。この大会を無事に終えることができたのは多くの方々の協力によるものということ、私たちアスリートは絶対に忘れません。そして、コロナ禍が厳しい中ではありますが、大会を開催していただき本当にありがとうございました。

一つ夢を叶えられたことに感謝し、また皆様とともにハンドボールを盛り上げていきたいと思っておりますので、今後とも応援よろしくお願いします。



©時事



©AFP=時事

餌やり体験で気分は飼育員

7月25日、市水族館で「飼育員体験ガチャ」が行われました。大きな水槽の生き物に、飼育員をまねて餌やりができるイベントで、どの生き物に餌やりができるかは、ガチャを回してからのお楽しみです。一番人気のオオサンショウウオが当たった親子からは「すごい勢いで餌を食べてくれて嬉しかったです。水族館の裏側にも入れたり、生き物の詳しい解説も聞いて、とても楽しかったです」と感想がありました。



夜の森で昆虫を発見

7月25日、三ツ石森林公園で「夜の昆虫ウォッチング」が行われました。夜の森を懐中電灯を頼りに歩きながら、樹液に集まるカナブンやカブトムシ、クワガタムシなどを探して観察した子どもたち。夜の森を歩くのは初めての子どもたちがほとんどでしたが、地中から出て歩くセミの幼虫も観察でき、夢中で虫を探し捕まえ楽しんでいました。「夜の森は少し怖かったけど、ライトで照らして探すのは楽しかったです」と感想がありました。



古代米を見守るかかし作り

8月1日、田伏地内の水田で「親子古代米づくり教室」を行いました。5月に植えた古代米は順調に成長し、スズメなどが稲穂を狙う季節を迎えたため、かかしを作りました。軸となる竹を十字に固定し、その竹に顔や体のふくらみとなる藁を付け、古着を着せました。参加した親子からは「かかしを立てる目的や材料、構造が分かり、勉強になりました」と感想がありました。収穫まで、色とりどりのかかしが田んぼを見守ってくれています。



災害し尿などの収集運搬の協力協定

8月5日、「災害時における災害し尿等の収集運搬の協力に関する協定」を一般社団法人茨城県環境保全協会と締結しました。この協定は、市内において大規模災害などが発生した際に、し尿や浄化槽汚泥、災害廃棄物などの収集運搬の協力を要請するためのものです。

協定の締結により、市民の生活環境の保全と公衆衛生の確保が大いに期待できます。今後起こり得る災害に備え、「安心・安全なまちづくり」を進めていきます。

